

絆きずな 11号

平成28年10月20日

毎週木曜日は「人権学習の日」です。自分の言動を振り返り、さまざまな人権問題について考えることで、自分を磨いていく日にしましょう。

「不器用な自分を支えてくれた全ての人に感謝したい。」 振分精彦 (元小結高見盛)

平成二十五(二〇一三)年一月、初場所前私は「幕下に落ちたら引退する」と公言し自分を奮い立たせました。この場所東十両十二枚目。負け越せば幕下陥落です。

しかし十三日目で四勝九敗、新聞には「高見盛引退へ」という記事が載りました。その日の夜、年末に胸椎の大手術をして入院中の師匠東関親方は、引退を心配する後援会の方に「いや、サカリがまだやると言うかもしれませんから。」と、答えてくれたそうです。世間が私の引退を決め付けている中、私の意志を大事にしてくれたのでした。入院先から毎日、激励のメールを送ってくれました。

私は子供の頃から体は大きかったのですが、気が弱く、不器用で、よく同級生にからかわれました。弱虫とかいうか、いじめられてたわけですね。

小学校四年生のとき、見かねた担任の先生が、自信をつけさせようと私を相撲部に入れました。中学横綱になり、相撲の強い高校に入学しましたが、そ

こでも不器用で周囲に迷惑のかけつばなし。しかし、監督や先輩が助けてくれました。大学の相撲部でも、同じでした。

その間、つらくて相撲を辞めようと思ったことが二度あります。そのとき「辞めるのはいつでもできるから、もう一日頑張ってみれ。」と母が言ってくれました。その言葉がなかったら、青森に戻っていたでしょうね。

千秋楽、私は引退を決心しました。

緊張から解放されほっとしたとき、私はこれまでいろいろな人に支えられて今日を迎えたことに、改めて気がきました。相撲でもう一日頑張れと背中を押してくれた母、病床の親方、先輩や先生、そして力士の仲間たち。不器用な自分を支えてくれたたくさんの方々の顔が、支度部屋で浮かんできたのです。

不器用な性格は直りませんが、これからは、これまでの恩返しをしながら、いろいろな善意や支えに気付き、感謝の気持ちをしっかりと伝えられるよう心がけていきたいと思います」と書いていきなさいと思います。

(私たちの道徳より)

【感想より】1年生

- 私はこの文章を読んで、この人は周りの人に支えてもらいながらも、ちゃんと最後まで一生懸命で、くじけそうになっても辞めないのはすごいなと思います。私はお母さんやおばあちゃんに「もう一回やってみ」と言われたことがあります。でも私は「もう無理だって」と何度も言ったことがあります。あきらめたことが何度もあります。でも、頑張ってみるとできたこともあります。なので、あきらめずに一生懸命することが大切で、周りの人の助けがあってこそできるんだなと思いました。
- この方は最後まであきらめず、一生懸命取り組んでいて、「見習わなくちゃ」と思いました。最後の文では「恩返しをしながら、いろいろな善意や支えに気付き、感謝の気持ちをしっかりと伝えられるよう心がけていきたいと思います」と書いてあり、「僕も恩返しができるぐらいがんばろう」と思いました。
- 高見盛さんは幕下に落ちたら引退すると、自分を追い込ませたのにはびっくりしました。記者たちが高見盛さんが引退すると決めつけていたけど、師匠や母、まわりの力士たちは、高見盛さんの意思をしっかりと大事にしていることに感動しました。自分もしらない間に色々な人から助けてもらっていると思います。なので、僕も高見盛さんのように感謝の気持ちを伝えられるようにしたいです。
- 私も不器用なので、いつも友達が教えてくれたりするので感謝をしたいなと思いました。私もいつも手伝ってもらっているんで、困っている人がいたりしたら手伝ってあげたいです。私も感謝の気持ちを普段からもって過ごしていきたいと思いました。
- 「不器用でもあきらめずに、これまでの恩返しをして、感謝の気持ちを伝えられるように」というところが、とても自分にとって自信につながっていくのではないかと思います。不器用なのはなおらなくても、がんばってほしいと思います。たくさんの人に迷惑のかけつばなしは良くないけど、迷惑をかけて、先輩たちがそれに気づいたら「大丈夫？」と声をかけてくれるのではないかと思います。

